

シンポジウム（Zoom ウェビナー）

日時：3月26日（土）11：10～12：40

『コロナ禍における介護福祉士養成教育の実践と今後の教育の在り方』

シンポジスト：石本 淳也 氏（日本介護福祉士会前会長・熊本県介護福祉士会会長）
澤 宣夫 氏（長崎純心大学 教授）
杉原 久仁子 氏（大阪人間科学大学 准教授）

コメンテーター：植上 一希 氏（福岡大学 教授）

コーディネーター：野田 由佳里 氏（聖隷クリストファー大学 教授）

問題意識 介護福祉士がエッセンシャルワーカーとして認知された一方、社会的評価の低さから、介護業界の人材不足は喫緊の課題となっています。社会を支える仕事としての意義を学会として再整理をし、今一度、超高齢社会における介護福祉士教育の職責を検討すべき過渡期と捉えています。

目的 コロナ禍の影響を受け介護福祉現場での働きがどのように変化したか、またそこに従事する介護福祉士にどのような教育を提供すべきか、現状と課題を明らかにするためにシンポジウムを計画しました。

『コロナ禍における介護福祉士養成教育の実践と今後の教育の在り方』

～職 能 団 体 の 立 場 か ら～

シンポジスト：石本 淳也 氏（日本介護福祉士会前会長・熊本県介護福祉士会会長）

Contents

1. コロナ禍における介護現場の変化～スタンダードプリコーションと業務の見直し
実習受け入れの在り方について
2. 介護福祉士の「これまで」と「これから」
3. 専門職としての誇り～KAiGO PRiDE プロジェクト

『コロナ禍における介護福祉士養成教育の実践と今後の教育の在り方』

～介護福祉士養成教育の立場から～

シンポジスト：澤 宣夫 氏（長崎純心大学 教授）

Contents

1. コロナ禍で改めて考える介護福祉実践
利用者が主体的に人生を生きることに寄り添い、その生活と人生を支えること
利用者に最も近いところで、時間と場所を共有し、生活をともにすること
2. コロナ禍で浮き彫りとなった介護福祉実践者のありさま
介護福祉実践者であるが故に、個人的生活に制約が加わる可能性があること
介護福祉実践者であるが故に、差別や排除の対象となる可能性があること
3. コロナ禍で改めて問う介護福祉士養成教育の課題
利用者の権利と豊かな生活・人生を徹底的に保障しようとする覚悟、熱意・誇り・倫理観の醸成
生活主体者としての介護福祉実践者として、課題に対処する思考過程の確立
4. 教育へのヒント

『コロナ禍における介護福祉士養成教育の実践と今後の教育の在り方』

～教材作成を通して～

シンポジスト：杉原 久仁子 氏（大阪人間科学大学 准教授）

Contents

1. コロナ禍での授業・実習で考えたこと
2. 介護創造力コンテスト教材作成を通して
3. ピンチはチャンス